

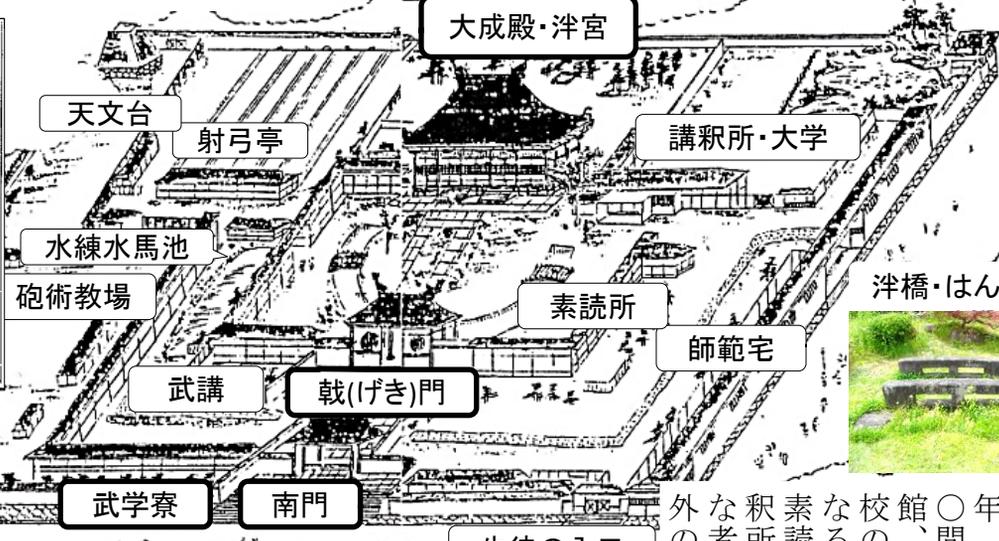
「洋」(はん)とは学校を表し、戟(げき)とは中国の武器で「ほこ」をいいます。



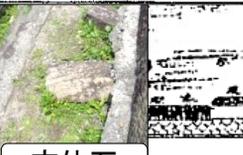
「馬肉」を生で食するようになるのは、昭和三十年九月一日、プロレスラーの力道山が、若松城西出丸に興行に訪れた際、会津に馬肉あるのを知って、西七日町の「肉の庄治郎」で馬肉を買い持参したニンニク味噌垂れで食べたのが始まりです。

「会津日新館天文台跡」平成三十年三月二十日、日本天文遺産第一号に藤原定家の「明月記」とともに認定。天文台は、江戸浅草、水戸藩、薩摩藩、阿波藩にもあったが、現存は会津の二一・一メートル、台上十メートル、高さ六・四メートル。北半分は道路で消滅。明治三十年頃遠藤十次郎(現夢)が石積し、昭和十年二月子の義之助により妙見菩薩(北極星)の祠が建立。その下には方位石があります。

# 会津藩校日新館



天文堂  
天文堂在西北隅其距方七丈三尺其上方三丈三尺其高二丈一尺堂未測嘗以考全玉堂仰勢極峻城面踞巖神峻峻火戸  
得聖靈壽其南鏡堂後  
聖堂嶽去六尺是改思  
無所不至矣



方位石

図「新編会津風土記」「会津日新館志」  
会津若松市河東町に復元されています。会津日新館0242-75-2525

寛政十年(一七九八)、会津藩家老田中玄幸(はるなか)が人材育成のために計画。会津藩御用商人須田新九郎が資金を出し、享和三年(一八〇三)完成。東西約一二年、南北約六十間、水戸の講道館、萩の明倫館とともに日本三大藩校の一つ。十歳で入学し、十五歳なるまで素読所(小学)に属し、素読所を修了した成績優秀者は講釈所(大学)へ入学。さらに優秀な者は江戸や長崎へ遊学、武士以外の医者も入った約千人の男子校。

嘉永五年(一八五二)二月六日長州藩の吉田松陰が訪問します。講釈所(大学)では『会津藩教育考』に文化三年(一八〇六)七月二十二日から五年間日本最初の給食、豆腐と青菜の一汁と香の物、月三度塩鮭を出しました。日本最初のプール(水練水場池)、日本最初の片道五十六キロのマラソン(當時は「遠足」と云)、約二キロの遠泳も実施。戊辰戦争で焼失しましたが、日本唯一の天文台跡が南半分だけ残っています。

## 「什の掟(じゅうのおきて)」

- 六歳から九歳までの「什」という藩士の子弟仲間集団。座長の「什長」が心得の「什の掟」を話しました。
- 一、年長者の言うことに背いてはなりません
  - 二、年長者には御辞儀をしなければなりません
  - 三、虚言をいふ事はなりません
  - 四、卑怯な振舞をしてはなりません
  - 五、弱い者をいぢめてはなりません
  - 六、戸外で物を食べてはなりません
  - 七、戸外で婦人と言葉を交えてはなりません
- ならぬことは、ならぬものです

## 日新館大病院と肉食の始まり

○平石弁蔵『会津戊辰戦争』慶応四年(一八六八)八月「各方面から傷病者が運ばれてくるので、日新館を臨時病院(日新館大病院)に宛て取院長として治療しました。この時牛馬を屠殺(とさつ)して患者に食した」のが会津地方の肉食の始まり。

○山川健次郎『会津戊辰戦争』八月二十三日「西出丸より火箭(ひや)を射て之を焼く傷兵歩することを得たる者は城に入り、歩する能(あた)ははざる者は自刃す」と会津藩で火を放ち日新館を焼く。

○籠城戦中、傷病者に給する食物は、照姫様が監督し、城の本丸西隅に炊事場を設けた。羹蔬(こうそ)野菜を煮た汁)魚肉鶏肉牛肉等を添え病室に運びました。